

学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	島根県鹿足郡津和野町立津和野小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 15
学級数	2	1	1	1	1	1	2	9	
児童数	33	35	28	28	36	34	5	199	

研究の概要

1. 研究主題

自分の思いや考えをもち、伝え合う子どもの育成
～きめ細かな指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・国語

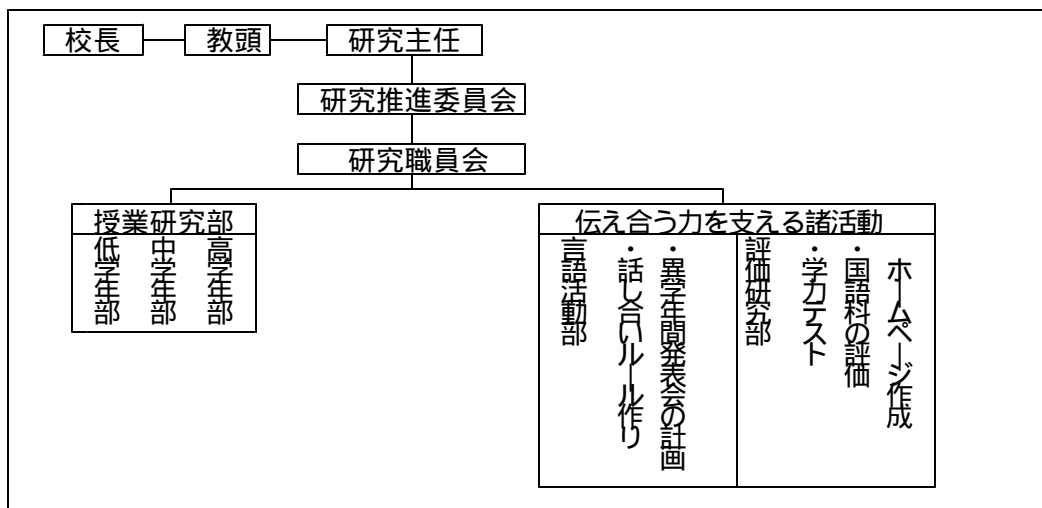
「話す・聞く」活動が落ち着いてできないという実態から、昨年度より国語科を中心に「話す力」「聞く力」の育成を目指して取り組んでいる。その結果、全校児童が集合する全校朝会等では必要に感じ静かに聞け、活動できるようになり、学習に於いても私語が無くなり、支え合う温かい風土の中で熱心に取り組む姿が見られるようになってきている。こうした基盤に立って今年度は更に豊かな言語感覚を養い、「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力を育成」していきたい。国語科の「話す・聞く」学習を核としながら、他教科等の話し合い、さらには言語活動のあらゆる場をとらえながら、確かな学力を身につけさせたいと考えている。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 『話す・聞く』を核にして学力向上を ～きめ細かな指導を通して～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上フロンティア事業についての共通理解 ・研究体制の確立 ・基礎学力検査の実施とその分析 ・研究授業の実施と検討 ・実践収録作成 ・ホームページ作成の検討 ・1年次の反省と2年次の研究構想策定 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習教材の開発 ・指導方法、指導体制の工夫 ・評価基準、評価方法の工夫・改善 ・評価を生かした指導の改善 ・訪問指導（平成15年10月） ・訪問指導（平成16年1月）
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 『話す・聞く』を核にして学力向上を ～きめ細かな指導を通して～ (児童一人一人の実態応じたきめ細かな指導を一層充実させ、指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上を実現する)</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次の研究成果や課題を踏まえた実践の修正及び実践研究内容、方法等の焦点化や拡充 ・ 2年次の実践研究計画立案 ・ 実践研究内容、方法の年間計画の見直し(実施教科、学年、実施形態等) ・ 実態調査等の実施(1年次との比較検討) ・ 研究紀要作成 ・ ホームページの開設 ・ 管内の小中学校を招いての研究発表会 ・ 実践集録作成 ・ 2年間の研究の反省と今後の取り組みについての検討 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の見直しと創意工夫 ・ 実践研究推進(実践研究内容、方法の焦点化や拡充) ・ 学習教材の開発 ・ 実践研究の評価方法の見直しとより適切な評価の工夫 ・ 「確かな学力」向上のための特色ある教育の確立
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

1. 国語科を中心とした取り組みとその成果

(1) 学習教材の開発

「つたえタイム」への取り組み(金曜1時間目)

- ・ 教科書単元との関連を図りながら、マスターカードを活用して、話す、聞く、話し合う活動を実施。

「話す、聞く」に重点を置いた単元開発

・津和野”に関する題材等を集め、子どもたち一人一人が、話したい、聞きたいと思う題材を開発・精選し授業実践をした。

(2) 指導方法、指導体制の工夫

「つたえタイム」に少人数授業、保護者、ゲストティーチャーを導入する。
少人数授業のグループ編成の工夫（特に総合的な学習、算数科で）
・習熟度別、興味・関心別など

(3) 評価を生かした指導の改善

「つたえタイム」での評価の工夫
・相互評価・・・付箋の活用、「つたえたいカード」の活用
・自己評価・・・「つたえたいカード」の活用
・教師による評価・・・「話す、聞く」カルテの活用
「つたえタイム」ファイルの活用（内容、評価の蓄積）
国語に関する基礎学力調査、アンケートの実施

(4) 研究の成果

効果を数値によって表すことを求められているが、国語科に於いて効果を数値化することは非常に難しく、今後も先進校の取り組みも参考にしながら模索していきたいと考えている。今年度の研究実践の成果としては、その実践期間も短かったため下記のような報告しかできない。

平成15年10月より3年生以上の児童は縦割りの小グループに別れ「福祉」をテーマに関係施設や独居老人を訪問し体験を通して学び、11月の学習発表会に於いてその成果を保護者や地区の方々に発表した。普段の学習の中で「話す」「聞く」力の育成を意識した指導をしてきたことにより、児童一人一人が前年度に比べより一層の自信を持って堂々と発表することができた。

「伝え合う力」の育成を目指し、学習の中で一人一人が発言や発表する機会、伝え合う機会を多くとってきた。引っ込み思案の児童もしだいに臆さず発表できるようになってきている。

算数に於いては、T.T指導、少人数授業、習熟度別グループ指導を実施したところ、学習効果や自信を持って意欲的に取り組む等に於いてめざましい変容が見られた。また、児童理解の深化にも効果的であった。

2. その他の取り組みとその成果

(1) 毎朝10分間の朝読書の継続（さらなる広まり・深まりを求めて）

昨年度より教育課程外の取り組みとして、職員朝礼を廃止し、その10分間を担任も一緒に朝読書に取り組んできた。豊かな情操や言語感覚の涵養、読書力・学習意欲・集中力等の育成にめざましい効果があった。

(2) 地区ボランティアによる読み語りの継続

毎週金曜日朝読書の時間に地区ボランティア16名の方に、交替で読み語りをしていただいた。子らにとっては楽しみな時間であり、静かに集中して聴けるようになり、情緒力、言語感覚の涵養等、聞くことでの教育効果が大きかったと感じている。

(3) 金曜学級の継続

数年前より学力保障の取り組みとして、毎週金曜日放課後教育課程外で学習に遅れがある児童や希望者、時には全員を対象に学習指導や相談の時間を確保してきた。算数や国語科等に於いて遅れがある児童も教師による個別で丁寧な指導により、自信をつけその後の一斉テスト等でも自分で問題を解こうとする姿勢が見られるようになった。

2. 今後の課題

研究実践による効果を数値によって表すことを求められているが、国語科に於いて効果を数値化することは非常に難しく、今後も先進校の取り組みも参考にしながら模索していきたいと考えている。

基礎学力調査によると、国語科ではほとんどすべての項目において全国平均より低く、なかでも特に「読む、書く」領域の落ち込みがひどく今後その領域への取り組みも加えていかなければならないと思っている。

算数において、T.T 指導、少人数授業、習熟度別グループ指導を実施したところ、学習効果や意欲的な取り組み等においてめざましい変容が見られた。国語に於いてもこのような学習形態での対応を模索したい。

学力等把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査「CRP」(観点別到達度学力検査)

・実施時期：平成15年6月19日
・実施目的：児童一人一人の基礎学力を把握し今後の研究、指導のあり方を検討するため。

・実施内容：
・教科 国語、算数
・対象学年 2年生以上全児童

意識調査「国語の学習についてのアンケート」

・実施時期：平成15年10月
・実施目的：児童一人一人の国語科についての意識を把握し今後の研究、指導のあり方を検討するとともに、研究実施後の変容を比較検討するため。

・実施内容：
・教科 国語科
聞く、話す、書く、読むことについての意識調査
・対象学年 1年生以上の全児童

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会(1)

・日時：平成16年10月22日(金)
・場所：津和野小学校
・対象：益田教育事務所管内の小学校
・会の目的：自校の実践研究とその成果を報告する

研究発表会(2)

・日時：平成17年11月
・場所：津和野小学校
・対象：島根県下の全小学校
・会の目的：自校の国語科の取り組みとその成果を報告する

ホームページの開設(平成16年)

・目的：研究成果の紹介・普及

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無